

## 巻頭言 秘密の部屋

映画、ハリー・ポッターシリーズの一作「ハリーポッターと秘密の部屋」の中で、主人公のハリーが古い日記に筆談で語りかける場面がある。「あなたは秘密の部屋のことを何か知っていますか」"Do you know anything about …" と、そこまで進んだとき、私は次に何が書かれるか、少し息を詰めて見ていた。

昨年から、これまで自分の書いた英語論文の原稿に、英米人の研究者からもらっていたコメントを見直し、表現上の注意点についてデータベース化する作業を進めている。今後の論文書きの参考にするためだが、そうしておさらいしていると、大学院以来の私の未熟な英語をよくもこれだけ懇切に手直ししてくれたと、改めて感謝の念を禁じえない。

私がこの作業を思い立ったのは、最近書いた論文で、何人かの日本人と *native* の *reviewer* から「英語がよくない」と指摘されたことによる。中学1年から何十年も英語を学び、20編近い英語論文を書いてきてなおこのありさまとは、いささかうんざりである。日本人研究者の論文英語を取巻く状況についてはいろいろ言いたいこともあるが、いずれにせよ私自身、少なくともまだ数本は英語の論文を書かねばならない。このあたりで復習して英語力を向上させ、同時に時間をかけて私の論文を手直ししてくれた *native* 研究者たちの労に報いたいと思ったのだった。

作業を進めるうち、自分の英語の癖やその背景が、少しわかってきた。私は仕事柄、受験英語の長文を生徒と共に読むことが多い。難関大学の英語ともなると、一文の使用語数は多く、修飾関係が入乱れ、*as* のような多義的な接続詞も多用されて読むのに一苦勞である。わざわざ難解な題材を取り上げて点差をつけようとしているのではないかと思われるふしもある。私の書く英文もそれに影響されているのかもしれない。きちんと文法を守って書いているつもりなのだが、冗長でわかりにくいと評されることが多い。このことは私のみならず、受験英語で「鍛えられた」日本人研究者の注意すべき落とし穴かもしれない。

それは気をつけるとして、しかしいくら考えてもわからないことがある。そういう場合は納得できないまま、*native* の指示に無条件に従っている。たとえば冒頭の「秘密の部屋」は、何と書くのだろうか。まず名詞の部分だが、「部屋」は *room* でよいのか。*room* というと、家具やベッドがあって、人間が何かに使っているという感じがする。実際には怪物が棲んでいることになっており、*chamber* がよさそうだ。次に語順だが、*secret chamber* なのか、*chamber of secret* なのか。*secret chamber* とすると、部屋そのものの存在が秘密というイメージ。*chamber of secret* の方は、部屋の存在は自明で、その部屋に秘密がつきまとっているという印象を受ける。映画の内容から、一応 *chamber of secret* としよう。さらに単複と冠詞の問題がある。*chamber* や *secret* のような可算名詞が、冠詞も複数の *s* もつけずにナマのまま放り

出されるということは、ふつうはない。ただし数語からなる句の場合、先頭につけた **the** が後ろの名詞までカバーするので、そちらの方の **the** は省くことができるとしている参考書もある。これに関連するが、**the (a) A and B** のときの **the** や **a** は、**A** だけでなく **and** を越えて **B** にもかかるので、**the A and the B** としなくてもよいということ、私は最近になってようやく知った。

「秘密の部屋」に戻り、**chamber** にも **secret** にも理屈上複数の **s** をつけることができるが、部屋は一つらしいのでこちらは単数とする。では **the** がつくのか、**a** なのか。一方の **secret** の方は、**a secret, the secret, secrets** の3つの可能性がある。さらに、二つの名詞の頭文字を大文字にして固有名詞化する方がよいのかもしれない。その場合、単複、冠詞の扱いは、小文字の場合と同じに考えてよいのだろうか…。かくしてそのすべての組合せを計算すると、何十通りものパターンが発生する。そこで問題。次の表現の正誤と、示すニュアンスを説明せよ。

**the chamber of secret, the chamber of a secret, the chamber of the secret, the chamber of secrets, Chamber of Secret, Chamber of Secrets, the Chamber of Secret, the Chamber of Secrets, …**。

中には映画の背景知識があれば判断できるものがあるだろうが、それだけではすまない。たとえば固有名詞に **the** がつくかどうかは、私の読んだある参考書ではホテル名を例に解説され、「ホテル側としては **the** をつけたいのかもしれないが、ガイドブックではついていない」と解説されるほどの微妙さである。

冠詞だけではない。たとえば生態の論文では、いつからいつまで、という期間の表現が頻発するが、**during, for, over, through, between ~ and ~, from ~ to ~** など、いろいろな言い方がある。これもよく直されるが、なぜそうなるのか納得できないことが多い。**over the five years, during the five years, for the five years** などの使い分け。**over, through** は、その期間を通じて何かが進行している、**during** は、期間内のある時点でそれが起こればよいという意味において、前者は **till**、後者は **by** (ともに日本語で「～まで」) に対応する、と私はなんとなく理解しているのだが、それは正しいのだろうか。

初めに戻って、"**Do you know anything about …**" に続き、ポッター少年は、"**the Chamber of Secrets**" と書いた。native であれば十歳そこそこの子どもがざらりと書くところを、外国人のおじさんはこんなに悩まなければならない。物語の中でハリーは結局、大蛇の潜む部屋の謎を解き明かす。しかし私にとって論文英語の世界は、いつまでも「秘密の部屋」のままであるにちがいない。

< S >